

第 1185 回放送分『子どもの精神疾患』3 回目

ゲスト：佐々木 なつきドクター

二見いすず

今月のドクタートークは「子どもの精神疾患」をテーマにお送りしています。

お話は、鹿児島県医師会 佐々木 なつき（ささき なつき）ドクターです。

佐々木さん、よろしくお願いいたします。

佐々木なつき Dr.

よろしくお願いいたします。

二見いすず

先週は自傷や暴力、過食などの「行動の問題」についてお話しいただきました。

今日は何についてお話しいただけますか。

佐々木なつき Dr.

今日は、1 週目の不登校、そして先週の「行動の問題」の背景の一つである、
神経発達症についてお伝えいたします。

神経発達症は、コミュニケーションが苦手で感覚過敏や強いこだわりなどがある自閉スペクトラム症、
落ち着きがなかったり、集中力が続きにくかったりする ADHD 注意欠如多動症、
そして、文字を読んだり書いたりすることが困難な限局性学習症があります。

二見いすず

自閉スペクトラム症、ADHD 注意欠如多動症、限局性学習症ですね。

それぞれについてもう少し詳しく教えてください。

佐々木なつき Dr.

自閉スペクトラム症は、社会的コミュニケーションや対人交流における反応に
問題があったり、こだわりと感覚障害があったりします。

症状は発達早期に始まりますが、のちに明らかになるものもあります。

二見いすず

ADHD 注意欠如多動症についてはどうですか。

佐々木なつき Dr.

不注意や多動性と衝動性の症状があり、

それによって対人関係の障害や学習上の問題などが出ます。

子どもの精神疾患で最も多く、学童期の子どものおよそ 5 % くらいともいわれています。

症状が大人になっても続くことがあります、

およそ 70 % が思春期以降も症状をもっています。

二見いすず

そうなんです。いまお聞きして感じたのは、誰しもそれぞれに何かしらのこだわりがあったり、不注意なときもあると思いました。

佐々木なつき Dr.

おっしゃるとおりなんです。ここで知っておいていただきたいのは、神経発達症ではない子どもであっても、程度の差はあれ、こだわりが強かったり、不注意なときがあったりします。神経発達症の子どもはそういった特性が強いということです。その分、家族の協力や支援が必要になってきます。

二見いすず

そうですね。支援を受けるにはどのようなことをしたらいいのでしょうか？

佐々木なつき Dr.

支援とは、まずその子の特性を理解してもらえ人を増やすことです。診断がつかないと受けることができないものもあります。

「診断がつくとショックだと感じる」という方がいらっしゃると思いますが、診断がついても必要以上にがっかりすることはないです。

受けられる支援があるので、

その子の特性を家族も含めてサポートしていくことが大切です。

周囲のサポートが手厚いと安心感につながって、その子の苦手分野も目立たなくなり、結果、診断がつかなくなることもあります。

二見いすず

よく分かりました。

今月は、「子どもの精神疾患」をテーマにお送りいたします。

お話は、鹿児島県医師会 佐々木なつきドクターでした。

佐々木さん、ありがとうございました。

佐々木なつき Dr.

ありがとうございました。